

## 第3回 夏季セミナー報告

# 「ひらがなの書字」の学習

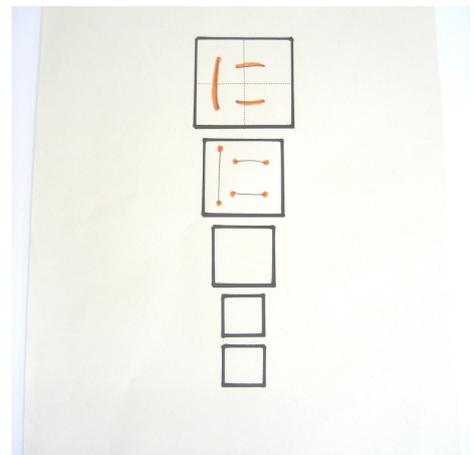
第3回夏季セミナーを、8月30日（土）に学研ビル（東京都品川区）にて行ないました。

今回のテーマは、ひらがなが書けるようになるための方法です。

講師の宮城武久（つばき教育研究所理事長）から、「文字が書けるようになるためには、直線（縦線・横線）、曲線が書けることや書き順がわかることが大切です。また、文字がもっている固有の空間における点や線の位置や線の方向を理解することが最も重要です。」との話がありました。

二人一組になって先生と子どもの役を交替しながら、演習を行いました。書き始め（始点）、書く方向、止まるところ（終点）など、文字を書くときのポイントをおさえた、子どもにわかりやすいことばかけや援助の方法を学びました。教える側の留意点として、子どもの目（視線）をよく見ること、そのためには必ず対面で行うこと、子どもが見ていなかった時だけでなく、見た時のことばかけも重要であることを学びました。

参加者のことばかけが会場に響いていました。何度も練習をなさっている方もいました。演習を通しての研修は、体を通して覚えるため、具体的な方法がよくわかると好評でした。



### ＜ 参加された方の感想 ＞

始点や終点、一画、二画目など書字の難しさに合わせて支援を増やしたり減らしたりしなければならぬことがよくわかりました。また、子どもをよく見ることを改めて認識しました。

特別支援学校教諭

子どもにひらがなを教えようと思い参加しました。空間認知ができていないようで、どのように教えたらいいのか分からなかったのととても勉強になりました。実践的な内容であったという間の3時間でした。

保護者

今年度夏季セミナーにご参加いただきありがとうございました。